アダムが先に造られた――それが意味するのは……

マーグ・モウチコ（Marg Mowczko）・ドイツ語訳：Hans-Jörg Ronsdorf · 2022年11月 · 2026年10月改訂

長子権と家父長制

昨日、ある若い男性と話をしていたとき、彼は話の中で、聖書は「私たちが地上にいる間は、穏やかな家父長制」を教えていると信じている、と説明しました。彼がこの「柔らかな家父長制」を信じている理由の一つは、長子相続の規則を社会に対する神のご計画の一部と見なしていることにあります。そして、アダムはエバより先に造られたので、その典型的な実例だと考えているのです。

メリアム＝ウェブスター辞典（Merriam-Webster Dictionary）によれば、「長子権」（Primogenitur、プリモジェニチュア[1]）には二つの意味がありえます。単に（1）「同じ親から生まれた子どもたちのうちで最初に生まれた者であるという状態」を意味し、その含意はさまざまである場合もあれば、（2）「長男に属する排他的な相続権」を意味する場合もあります。第一の定義の意味では、アダムとエバは同じ親、すなわち神の子どもたちであり、アダムが長子であると理解することもできるでしょう（ルカ3:38、コリント第一11:12も参照）。

創世記2章とテモテへの手紙第一2章13節（創世記2章の要約）は、アダム（あるいはha'adam）が最初に、エバが二番目に造られたことを私たちに告げています。しかし、これらの聖書箇所は、この順序に意味があり、それが人間関係のあり方についての神のご計画の一部であることを示しているのでしょうか。**男性が一番目、女性が二番目という、長子性あるいは優先順位の継続的なパターンがあることを示しているのでしょうか。**これらの聖書箇所は、何らかの形で、男性だけの権威や穏やかな家父長制を定めているのでしょうか。エバを除外する、アダムのための「排他的な相続権」を示しているのでしょうか。

長子権の議論が成り立たない5つの理由

キリスト者の間の家父長制を創世記の長子相続制と結びつけることには、問題が山ほどあります。それが成り立たない理由を五つ挙げましょう。

1. 創世記2章21-22節に記されている手術のあと、エデンの最初の人間は、神に最初に造られたときとは違うものになっていました。彼のからだから一部分、あるいは一方の側が取り去られ[2]、彼の一部が今や欠け、女性の欠くことのできない構成要素となっていたのです。アダム（あるいはha'adam）からエバへのこの重要なからだの一部の移行によって、男性が一番目で女性が二番目だという考えは、それほど明白でも決定的でもなくなります。

2. 長子権は生まれた順番に関わるものですが、アダムもエバも生まれたのではありません。二人とも神によって造られたのです。アダムが「長子」であったと述べている聖書の節は一つもありません。

3. 長子相続の慣習はイスラエルの社会を含む多くの古代社会の一部でしたが、それは息子だけに関わるもので、娘にも女性にも関わるものではありませんでした。

4. この慣習は、聖書に出てくる多くの著名な家族によって守られていませんでした。

シンシア・ウェストフォール（Cynthia Westfall）は、この第四の点についてこう書いています。

> 創世記の物語全体を通して、最初に生まれた者、あるいは最初に来た者が必ずしも権威を持っていたわけではないことは、初めから明らかである。兄弟の間の長子相続制は繰り返し覆されてきた。したがって、アダムが最初に形造られたからといって、創世記を男性の権威を支持する論拠として持ち出すことはできない。カインが最初に生まれたが、神の恵みを受けたのはアベルであった。エサウが最初に生まれたが、神はヤコブを選ばれた。ルベンが最初に生まれたが、キリストの系譜はユダを通して来た。そしてヨセフが家族を救い、彼らに対する権威を引き受けた。マナセはヨセフの長子であったが、ヤコブはエフライムの頭に右手を置き、彼のほうが大きくなると告げた。

旧約聖書のほかの書も、神が弟たちに兄たちよりも大きな権威を与えられたことを示しています。たとえば、モーセは兄アロンよりも大きな権威を持っていました。ダビデはエッサイの末の息子でしたが、神によってイスラエルの王に選ばれました。ソロモンはダビデの長男ではありませんでしたが、ダビデの後継者となりました。

長子相続の慣習は、イスラエル人の間で厳格に守られていたわけでも、広く一般に守られていたわけでもありません。さらに重要なのは、いくつかの重要な場面で、神ご自身がこの慣習を顧みられなかったことです。そして出エジプト記4章22節では、神はたとえとして、イスラエルの民全体を（男性だけではありません）ご自分の長子と呼んでおられます。

5. 重要なのは、長子権という概念は、新しい創造の中にいるイエスに従う者たちの間には居場所がないということです。むしろイエスは、ご自分の国では「後の者が先になり、先の者が後になる」と教えられました（マタイ20:16）。イエスはまた、同じように文化に逆らい、差を均すようなほかの原則も教えられました。

長子権とイエス

私たちが属している神の国において、長子の権利を主張できる唯一の方はイエスご自身です。ウェストフォールは、キリストにある私たちすべてにとって「イエスは私たちすべての中で長子である」こと（ローマ8:29、コロサイ1:15, 18）、そしてこの真理が「イエスに従う者たちの間の関係を相対化する」ことを指摘しています。**言い換えれば、イエスに従う者たちの間には平等があるのです。私たちは性別にかかわりなく、私たちの偉大な兄の姿に似た者とされていくのですから。**

長子相続制は、神が社会に導入された力学でもなければ、イエスが良しとされた力学でもありません。[3] さらにパウロは、アダムが先に造られたというだけで男性が特別な地位や特権を持っているという考えを、力を失わせています。コリント人への手紙第一11章12節でパウロは、最初の女性は最初の男性から出たが、それ以外のすべての男性は女性から生まれた、と教えています。彼は

さらにこう説明しています。「しかし、すべては神から出ています。」男性も女性も、究極的には神を自らの源としているのです。**ここには男女の間の違いではなく、男女の相互依存があるのです。**

> **コリント人への手紙第一11章11-12節　とはいえ、主にあっては、女は男なしにあるものではなく、男も女なしにあるものではありません。女が男から出たように（アダム）、同様に、男も女によって生まれるからです（カイン以下）。しかし、すべては神から出ています。**

男性は、自分の姉妹たちよりも高い権威を持っているわけでも、より良い相続財産を持っているわけでもありません。むしろ私たちはみな、すばらしい相続にあずかるのです（エペソ1:21-22）。キリスト者の男性と女性は共同相続人であり、長子相続制のしるしなど少しもありません。私たちは、私たちのより偉大な兄イエスとさえ共同相続人なのです（ローマ8:16-17）！

新しい契約と、キリストにある私たちの新しい創造についての驚くべき神学的真理は、イエスに従う者たちの共同体の中での私たちの今の関係に直接影響を及ぼします。**この共同体、すなわち教会の中には、性別による階層やいかなる種類の家父長制も、居場所があってはならないのです。**

B・T・ロバーツ（B.T. Roberts）は、男性の次に二番目に来る女性について、このように述べています。

聖書は女性を男性より劣り、男性に従属する者として描いている、だから女性が教会においても国家においても男性と対等な地位に就くことは許されるべきではない、と［一部の人々によって］強く主張されている。その証拠として、女性が最後に造られたという事実が挙げられる。しかし、もしこれが何かを証明するとすれば、それは女性の優位性である。なぜなら、創造のわざは、低いものから高いものへと規則正しい段階を追って進んだからである。

B・T・ロバーツ、Frauen ordinieren［女性に按手を授ける］（1891年）

原文：マーグ・モウチコ（Marg Mowczko）「Adam was created first and this means …」2017年3月3日、https://margmowczko.com/adam-created-first/ — 著者の厚意による許可を得てドイツ語に翻訳。

注

1. 長子相続制（プリモジェニチュア）とは専門用語で、亡くなった人の遺産と法的地位を最初に生まれた子だけが受け継ぎ、その弟や妹たちは考慮されない相続の順序を指します。最初に生まれた子の相続人・法的承継者となるのも、やはりその子の最初に生まれた子です。Wikipedia
2. 創世記2章で伝統的に「あばら骨」と訳されてきたヘブル語tselaは、通常「側面」を意味します。（ストロング（Strong）番号6763を参照。）ジョン・H・ウォルトン（John H. Walton）は、ヘブル語聖書のほかの箇所でtselaという語がどのように使われているかを見ると、「神はアダムの両側面の一方を取られた、と結論せざるを得ない。おそらくそれは、神がアダムを二つに切り分け、その一方の側から女性を形づくられたということを意味している」と説明しています。Walton, The Lost World of Adam and Eve (Downers Grove: InterVarsity Press, 2015), 78.
3. **イエスは、男性が一番目で女性が二番目に立つような創造の秩序なるものについて、一度も語っておられません。福音書の中でイエスは、男性と女性が同時に造られたと述べている創世記1章から引用しておられます。たとえばマタイの福音書19章4節で、イエスはパリサイ人たちにこう尋ねておられます。「創造者ははじめの時から『男と女に彼らを創造され』たということを、あなたがたは読んだことがないのですか。」イエスはまた創世記2章からも引用しておられます。「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一**

体となるのです。」イエスは結婚における一体性（すなわち一つであること）を教えられました。結婚の中に男性の権威や性別による階層がある、あるいはあるべきだとは教えられませんでした（マタイ19:5-6）。